



松家集
十四
二



松葉名所和歌集第十四 志

白河 里野

山城 愛宕郡



^{六祐}白河ふむとまきりたみくあひい雲入林と河うはゆるか

^{家集}百葉の花のうひまてうはゆつときとらうあ白河の水 貫之

^同白河の松れここま新まけいけまうまむかひくまはり 高見

^同あか橋子目の松れもせろひとみうとんせよ白河のあ 元補

^同白川乃也もあひむ弦いあけつらむいよ海んえとるか 同

^{山家集}卯朧やらうりゆむ白河れ海りあゆのうらとまゆあ 國信

^同白河乃楯とえてうあくさむら音舞れいひうらふ心と 西行

^同あつ川の春乃楯れ常ち花乃詞とさくくらさる 同

^同風ゆみも来のせれ流事そあふ浪と川白川の里 同

^同初来の名也あわん書らうも月沈海とまはれ水 同

北岩山標之野の古標りにはじり人の跡ありは
千六百
かゝる人跡ありて古標り魚小池の白雲
史本
あつこ山まづ標りも消ゆは標り原の麓より

好忠
誠前
匡房

城南寺

山城

城南寺の祈雨師會社及祝

月清
氏乃戸も標りありし事也其乃南宮君より

後長橋

標之野

同

八雲山村標之野

六祐
標花咲てらりぬと人のつらきやれは

ゆり

新右
あはれいふるは標り人といふは標りもさるる事也

亦人

續右
あつたれつるは標り人といふは標りもさるる事也

亦人

夫本
あつたれつるは標り人といふは標りもさるる事也

亦人

六六
あつたれつるは標り人といふは標りもさるる事也

亦人

史本
あつたれつるは標り人といふは標りもさるる事也

亦人

同
あつたれつるは標り人といふは標りもさるる事也

亦人

同
あつたれつるは標り人といふは標りもさるる事也

亦人

同
あつたれつるは標り人といふは標りもさるる事也

亦人

塩竈

同

類字 愛宕郡

古今
君ゆきて塩竈ありて塩の浦ありしとて又し海に貫之
鹽竈よはれり事ありし事也其乃船も多しなり
業平

志津原

同

藻塩

山家集 和集卷十五
山の川乃復ぬとさゆりうか冬よはせり志津原に里 西行
宿をめてるい山に所れ志津原や都なりとさわうと海を 行実
夜えぬえぬ燈小立ちうして暗りとみぬえ乃をれ里 肥後

推尾滝

山城 藻谷

吾妹乃さるる浪のじやふかやえやとく人志ぬれぬ

磯城嶋

宮

大和

八雲山抄

大方の志さうゆれをうけてはたふとれぬとさく
大和あともさうまのそあせひ昔といく芳も浦はる

嶋乃宮

同

和撰名取集三當國

さうては我目乃山よれ万代にまらぬとゆめぬとぬのさくも 舎奈

嶋乃さうの池なるそゆらるるありひかゆれ思海さく同
ゆれ宮ゆらるる池なるそゆらるる身人目か志て池にゆらるる人丸
さうては昔目乃山よれ万代にまらぬとゆめぬとぬのさくも 舎奈
新自てはゆらるる池にまらるる身人目か志て池にゆらるる人丸 同

茂島

同

和撰名取集三當國

さうては昔目乃山よれ万代にまらぬとゆめぬとぬのさくも 舎奈
新自てはゆらるる池にまらるる身人目か志て池にゆらるる人丸 同
さうては昔目乃山よれ万代にまらぬとゆめぬとぬのさくも 舎奈
新自てはゆらるる池にまらるる身人目か志て池にゆらるる人丸 同
さうては昔目乃山よれ万代にまらぬとゆめぬとぬのさくも 舎奈
新自てはゆらるる池にまらるる身人目か志て池にゆらるる人丸 同

霜を多月をたつてあてた道は浦の浦にまゝ流るぬ 後醍醐

喜ぶ暇もえまじい眺事いふは浦のねりし酒 範久

任音の浦よあはれはなまよふてまじい酒 範宗

さみうれ岸小幸少は昔遊とらる浦のはぢくは 小宰相

河ひさのあはれの浦に地人の旅とてまじい酒 後徳大寺

同

同

場下

捕津

藻屋和名嶋下郡

和泉式部抄 吹風のそよぎもろくはあつたる流れもろくは 和泉式部

嶋熊山

同

八雲抄

万土 玉指回たまふ角はたぐれぬいそりる 萬土

白野溪

同

名号秋枕三當國

名号 月夜よてくろむ柱もくろむいそりる 名号

柴山

同

十首 の船乃われの湊ふうふあり柴山出ら 為尹

下檜山

同

仙覚抄三捕津国能勢郡

カ九長守 たまふ海もいそりてはうのいそり目み カ九長守

四八津

同

藻屋

万六 らぬよりあそはるる流の煙網をかむせ 道土守 部王

塩合渡

伊勢

藤原

二見渡とち乃渡やうやん渡あひの物れはあまのれを 長明
右の渡と塩合とあつこさう

月さふしひの川にひのき清てまをみらぬ渡あひの渡 同

篠間

同 秋枕より

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

志賀須香渡

冬河 野字

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光
お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光
お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光
お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

お方海ふとまの海さあつて南のうへに渡あひの渡 信光

夫本
いほくは夢て海くんちのくろむひまの那おまの海は
同
う程とてさふさふの海を渡りておまの海は
同
海に舟持ていぬゆたふさふの海は
同
さうはくはさきき海におまの海は

白菅浦

奏

遠江

歌字

名寄
いほくは夢て海くんちのくろむひまの那おまの海は
同
う程とてさふさふの海を渡りておまの海は
同
海に舟持ていぬゆたふさふの海は
同
さうはくはさきき海におまの海は

志留波磯

崎

同

八雲の抄

一乃中
さうはくはさきき海におまの海は

名寄
東海乃ち富の海は
同
あふの心とちあふ東海乃ち富の海は
夫本
うき事とてさふさふの海を渡りておまの海は
十首
うはくはさきき海におまの海は

妙井渡

同

名寄 波柁三ア

さうはくはさきき海におまの海は

名寄
夏うき事とてさふさふの海を渡りておまの海は

師齒迫山

孫河

和撰名所集二雷因

名寄
荒熊乃海は

名寄
さうはくはさきき海におまの海は

河之浦の孤て位なるをやとせ海をいふとをりけん

後磯磯
院内製

志豆横山

後河

志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と

公実

志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と

忠房

志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と

同

志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と

同

志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と

同

志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と志豆の浦と

同

志太浦

同

志太浦と志太浦と志太浦と志太浦と志太浦と

志太の浦と志太の浦と志太の浦と志太の浦と志太の浦と

同

志太の浦と志太の浦と志太の浦と志太の浦と志太の浦と

同

志太の浦と志太の浦と志太の浦と志太の浦と志太の浦と

同

塩山

甲斐

類字

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

雅言

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

忠房

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

家隆

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

衣笠

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

隆信

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

経道

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

頭仲

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

終系

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

和泉

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

去ア

塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と塩乃山と

後鳥羽

横山

後河

横山

後河

瀧森

山田井

常陸

数字

万九 流石履方かりてまれのぞくはつとつた田井の居令と 不人

懐中 妹ありお中にもある瀧山ありて流りて流ゆさる流

現六 夕まれ流りて林の下まの流れにまらる流やとらん 不人

夫木 春あつてつれ山の花の平とれみそれをみる 六条院

同 流りて流れまの流りて流乃田井の流りてあり 支後

同 夜もまらる瀧乃山に流りて流れまを思ふ半流れ色 歌季

同 夕月あに流りて山の流れまを思ふお中にも 同

草考 梅うえ乃流れまの流りて流乃山に流りてあり 流石

白雲山

同

漢塩

歌中にもまらる流りて山の流りて流りて公歌流

公忠歌集 梅の流りて流りて白雲乃山に流りて流りて

家集 白雲乃山に流りて流りて流りて流りて流りて 兼威

同 流りて流りて流りて流りて流りて流りて流りて 元真

夫木 流りて流りて流りて流りて流りて流りて流りて 馬扇

同 流りて流りて流りて流りて流りて流りて流りて 同

同 流りて流りて流りて流りて流りて流りて流りて 資宣

志太流鴻

同

漢塩

六百番 流りて流りて流りて流りて流りて流りて流りて 隆信

右末 浦凡も流りて流りて流りて流りて流りて流りて流りて 保季

夫木 流りて流りて流りて流りて流りて流りて流りて 頼政

いづつ待てよ乃山海を越おれぬはむとてよ久ぬけり 経家

散はりぬむとて海と思ふ事いふれはむとてよ山越 兼宗

春いづも雪海とよ海を越て花うみくぬ山越 隆信

白のいづも海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 季経

乃のいづも花乃白雪ありとて冬いづも海とよ山越 信定

ひくし誰とれ山海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 顯昭

古ふ思ふ人ぬ海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 寂蓮

なちとて海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 女房

去あつと花れ海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 中宮
作太夫

海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 女房

むとて海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 家隆

いづも海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 季経

春乃花れよきいづも海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 西行

散はりぬむとて海と思ふ事いふれはむとてよ山越 藤鎮

いづも海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 同

いづも海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 同

いづも海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 同

照月と光海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 俊成

志乃海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 隆房

船妻や海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 業清

志乃浦と花乃山とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 岸連

いづも海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 同

志乃真とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 通具

いづも海とよ海と思ふ事いふれはむとてよ山越 成茂

滋賀樂 嶺山里 近江 郡字

六休 志く素乃雪の立ちしき霞鳴とも物と思ふは此

六百番 志く此れ外山の雪も清くそそと積もるを言れ夕風 顯昭

山家集 春淺もそれ色も風多きまゝの雪消ぬあつる花里 西行

同 志くきれ松乃樗のこめてよ初雪よりぬむの山人 同

新六 志く素の山もそそしほぬおけくゆらる雪れ雪のこ 之後

同 滋賀東れ浦きの松川ゆりて影も流るぬ雪れよの月 家隆

同 志くふれと山の奥ふぢりも地埋れも竹松の雪れ雪 同

同 志く此れのか山れ梢をそえて露ぬあわらる雪れ淡雪 同

新六 志く此れこの山の麓乃木くれりあつる雪れ雪れみく之 為家

天本 志く此れか山の松もそそしほぬあけぬ雪れ雪れ雪れ 同

同 志く素乃と山の麓あつる雪れ埋もる果ぬ松乃村立 光經

同 志く此れか山の紅葉もれも夕白と海もそそ地乃ん 光基院

同 滋賀東乃と山れお葉あつる山ゆりも雪れ小海海ぬ 如願

同 志く雪もみ松の葉白く雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ 法師

山集 志く雪もみ松乃雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ 終心

白月山

近江 仙覺抄三當国

万十二 志く雪もみ松乃月山れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ 吾名

天本 志く雪もみ松乃霜もみ雪れ白月山の雪れ雪れ雪れ 有仲

同 卯花乃雪も海も久堅の志く月山れ林葉ぬらん 清輔

同 志く雪もみ松乃雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ 顯季

同 卯日乃雪も白月山の雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ雪れ 同

志あれちい今りるり糸いあ 海志むらつていハ 名

標茅原

下野

類字

名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

標茅原の事いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

下野や志めらるる事いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

下純園

陸奥

類字

東海乃るけきと行めりいけとく言下純の園 甲斐

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

塩竈浦

同

ま城取

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

志まけけや志めらるる事いもまよの息いハ 名

月清

不終と乳心の果はあふ下し月よあはれほの浦 後藤

愚草

ほの浦の浪は月をえて松と鳥の縁を是れ 定家

王吟

ほの浦の松の影も多しほの浦の浪は月をえて松と鳥の縁を是れ 家隆

千五百

春のれりより松の影と鳥の縁を是れ 保季

同

山凡の花の波立みより松の影と鳥の縁を是れ 家長

天本

衣とや霞むよほきてほの浦の沖漕舟れをりる色 後藤

同

雲乃浪はほの浦の沖漕舟れをりる色 保季

同

眺まはせりほの浦の沖漕舟れをりる色 家隆

同

霧と花とほの浦の沖漕舟れをりる色 定家

水集

大方のほの浦の沖漕舟れをりる色 後藤

建保

月影のほの浦の沖漕舟れをりる色 行意

同

立浦のほの浦の沖漕舟れをりる色 後藤

同

春も又の浦の沖漕舟れをりる色 内侍

同

立のほの浦の沖漕舟れをりる色 范宗

同

見渡せぬほの浦の沖漕舟れをりる色 康光

同

信夫 山原里 陸奥

同

人をもほの浦の沖漕舟れをりる色 隆信

同

思ひもほの浦の沖漕舟れをりる色 家隆

同

悲ゆほの浦の沖漕舟れをりる色 范宗

同

羨まほの浦の沖漕舟れをりる色 隆信

同

さあほの浦の沖漕舟れをりる色 同

同

我をほの浦の沖漕舟れをりる色 慈鎮

同

夏乃我の浦の沖漕舟れをりる色 同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

詠藤

名号

建保

現六

西之巻

名号

愚草

同

天不

同

同

同

いんせん思ふの山と通ふて海はるま又海をいぬる 慈鎮

おきくれ雅多うん陸奥れ思ふのわくれ堂乃起す 俊成

涼しき楯乃美風はらさそそ思れ杜小梅もさお後ん 顯昭

人とお別れ思ふの山は端ふそのらそそまきまふりあう 家隆

うよんあ思ひの名乃そそ海は初思ふれ山乃らあや 後采

何う思て思やう海をみられり思ふるあよ梅内を喚 家隆

恨てもこひくも思ふるあ思ひあ思ふの山はらあ下凡 家隆

衣使ぬ公の奥れ思ふの山は思ふる河もとあひそそと 定家

郭云云れあの中ふらとされまそお花れ月初此 同

らういあよとくと思ふるあ思ひあ思ふの山乃思れ梅ち 家隆

何れ思ふも思ふ奥も思ふれ山は思ふと思ふ思 知家

里乃名も思ふとさけい山吹の花といふあ思ふ思ふり 光俊

いづうと思ふの杜れふ乃思ひりく妙ふ思ひきりか 国親

思ふまて思ふれ浦の秋乃風を思ふ何うして思ふる思 後采

陸奥れ思ふあ山乃思ふとそ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ 行意

思ふ山乃思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ 定家

をの思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ 俊成

春あうれ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ 花宗

思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ 康光

白河関

陸奥 類字

兼浦家集 陸奥れ思ふ川越あひく思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ 重之

家集 白川乃思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ 重之

愚百 思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ 師時

東海や志願くしこよ富りてちのいもみくハハカ 顯仲

塩津山

越前

仙覚抄ニ當国 敦賀郡

後古 塩津山打越りて我れまの馬津まつく家あしも 金村

新後撰 志願くんゆきふられて塩津山世にふるるくも物れ 紫式部

新後撰 物れもゆきふられて塩津山吹く風一掃ぬ白鳥 津守 国助

白山

加賀 新字

万十四 ちくま白山風は秋まもふるまきあわの流 吾名

六帖 ちくまの海白鳥れそのふと年と津り奉も 右倉

大和物語 君らゆらら白鳥もぬも鳥の海あく伝らぬん 兼晴

家集 白山の峯はるれら白鳥のの海もふはて 家持

同 行人もみえ祢のなもちくまやたりのきけり越れ白山 源順

同 年と魚て雪ははら白鳥のちんちんちんちんははははん 重之

同 ちくまの雪はあふるるるるるるるるるるるる 中務

同 白山の雪はあふるるるるるるるるるるるるる 同

活百 ちくまの雪はあふるるるるるるるるるるるる 顯季

拾玉 ちくまの雪はあふるるるるるるるるるるるる 幕下

詠藻 ちくまの雪はあふるるるるるるるるるるるる 俊成

万代 ちくまの雪はあふるるるるるるるるるるるる 大徳

月清 初雪れちのちくまの雪はあふるるるるるるる 後藤

愚草 春ハあはれはるるるるるるるるるるるるるる 定家

同 面影もあふるるるるるるるるるるるるるる 同

千八百 ちくまの雪はあふるるるるるるるるるるるる 同

同 花も雪もあふるるるるるるるるるるるるる 言月

同 白山や雪はあふるるるるるるるるるるるるる 釋阿

山集 ちくまの雪はあふるるるるるるるるるるるる 後藤

信濃濱

越中

信濃濱

越中

^{五七} 越中の海はあめの濱と名づる春日を忘て思ふや
^{大伴家持}
^{四六} いしきよりきふ吹くあめ波は海は志の濱の好む初風
^{夫木}
^同 あゝの海は信濃の濱の秋風よ木葉は麻衣存く思ふ
^同 約をあてしきくといふと越中の海は信濃の濱未と昔好
^{云朝}

饒磨

江海市 河里

播磨

饒六郡

^{五七} 志う海に漕とあし天傳ふいさの浦は波立ふ名
^{同十八} 志う海は出さるる志う海川は人日いそ我意や海好
^同 春霞志う海は海とこあはまふれはつる形や蛇のな船
^同 志う海は出さるる志う海は出さるる麻のゆりて
^{六百番} 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^同 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる

山家集

^{拾玉} 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^{名寄} 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^同 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^{新六} 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^同 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^{建保} 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^同 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^{愚草} 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^{玉吟} 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^{夫木} 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる
^同 志う海は出さるる志う海は出さるる志う海は出さるる

信成

志都石室

未勘

万三 大かじらすかきかたれいもせんたの思を幾代かゆん 生石村 主真人

敷野

同

万十 忍小悠ううれと...の井れ枯海...のさ小森... 石

信濃野

同

家集 ちあれうき... 小君

南指岳

同

隆源 村消... 隆源

又本 ころし... 須源院

嶋門

同

万三 ちめら... 島

漏浦

同

又本 ちあ... 後元奈

塩浦

同

家集 ちあ... 伊勢

又本 ちあ... 隆孝

嶋根御湯

同

百箇中 ちあ... 兼昌

白石

同

家集

とく石乃... 後乳

鳴秋魚

未勅

馬子... 萬十

松葉名取和歌集第十四終

